

中国における I C T を利用した教育の現状と課題

— 黒龍江省佳木斯市第十九中学校の事例 —

付 婷婷*¹ 林 徳治*²

〔概要〕 高度情報通信社会における今日、IT 立国は、中国の基本国策の一つである。ICT を利用した教育は、21 世紀に向け新たな教育課題として、重要視されている。本研究では、中国における中学校の生徒を対象に ICT を利用した教育の現状を把握し、効果的な授業技術の検討を目的としている。本稿では、黒龍江省佳木斯市第十九中学校を事例とし、アンケート調査を通し、ICT を利用した教育の現状に見られる課題について検討したので、ここに報告する。

〔キーワード〕 素質教育、受験教育、IT 立国、ICT 利用教育、情報モラル 中国黒龍江省

1. はじめに

変革の情報化時代と呼ばれる今日、ICT を利用した教育は、よく耳にする。定義からみると、教科の目標を最大限に達成するために、各教科で情報通信技術 (Information Communication Technology) を道具として利用する教育だと認められる。中国は、1980 年代からの経済改革をきっかけに、社会は昔と比べ、大きく変貌している。社会システムはもちろんのこと、今まで人間が培ってきた理念や思考までも変化している。近年、IT 立国の基本国策のもとで、教育改革の中心 (素質教育という) の推進の歩みと合致するために、ICT を利用した教育は、効果的な授業技術の一つとして、着目されつつある。(ここで言う中国の素質教育とは個々の有する潜在的な素質を伸長することである。)

中国の各学校は、児童・生徒の獲得競争のもとで、21 世紀に向け“特色ある学校”を作るために、力を入れている。コンピュータ、テレビ、電子黒板等様々な教具を導入した学校 (財務的に豊かな学校) は、以前よりはるかに多くなった。そこで、教具を用意したが、効果的な授業利用、ICT を利用した教育の推進及び情報教育の展開は今日の課題である。

2. 研究の必要性

中国における ICT を利用した教育の研究の必要性は、大きく分けると、社会的と教育的背景による。

社会的背景：経済、政治等の総合実力の競争が激しい今日、競争の実質は、国民素質である。国民の素質を高める重要な一環は、教育だと認められる。中国では、従来の受験教育は、国民の素質を高める現代社会の要求と合致せず、素質教育へ転換する必要がある。

高度情報通信社会における今日、2005 年中国モバイル通信国際フォーラムの調査によると、中国でインターネットを利用する人数は、すでに 1 億近くになったと報告されている。情報化の普及に伴って、2006 年から、CERNET (Chinese Education under Research) という“教育情報ネットワーク”を全面的に推進している。

教育的背景：90 年代以来、中国は、全力的に素質教育を教育改革の中心とし、推進している。教授—学習過程の視点から、素質教育は、全人的な発展、全面的な発展、個性の伸長、三つに分けられる。個性の伸長と全面的な教育を提唱するもとで、従来の系統学習等の授業観 (行動主義にあたる) から開発学習或いは主体的学習の授業観 (構成主義に当たる) へ転換しなければならない。

中国では、子どもを主体とし、わかる、楽

*¹ FU, Tingting : 山口大学教育研究科

*² HAYASHI, Tokuji : 山口大学教育学部

e-mail=tingting3333jp@yahoo.co.jp

e-mail=hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp

しい授業が、最近注目されるようになった。ICT 社会において、ICT を利用した教育も重視する必要がある。

3. 黒龍江省佳木斯市第十九中学校の授業風景



図 1. (国語の授業)



図 2. (コンピュータの授業)

4. アンケート調査

中国の ICT を利用した授業の現状把握及び情報教育について、以下どおりに調査を実施した。

[対象者]

黒龍江省佳木斯市第十九中学校の生徒 1 年生 50 名、2 年生 50 名 合計 100 名

[実施日]

2006 年 7 月 1, 2 日

[調査内容]

本調査では、42 項目の質問を実施した。本稿では、その一部を報告する。

質問①授業終了後は

結果：1. 塾や習い事 45% 2. 家族と 38%
3. 友人と 14% 4. 1 人で 3%

質問②コンピュータやインターネット利用学習への興味

結果：1. 大変ある 46% 2. 少し 38%
3. あまり 6% 4. ない 10%

質問③コンピュータやインターネット利用学習

結果：1. よく知っている 18% 2. 少し 42%
3. 聞いたことがある 36%
4. 知らない 4%

質問④授業でのビデオ、コンピュータ利用

結果：1. よく利用 20% 2. 時々 21%
3. あまり 40% 4. 利用しない 19%

質問⑤コンピュータを利用した授業の頻度

結果：1. 多く受けた 19% 2. 時々 46%
3. あまり 30% 4. 利用しない 5%

質問⑥コンピュータを利用した授業の関心

結果：1. とても楽しい 39% 2. 少し楽しい 52%
3. あまり 5% 4. 楽しくない 4%

質問⑦著作権の意味

結果：1. よく知っている 22% 2. 少し 30%
3. 聞いたことがある 30%
4. 知らない 18%

質問⑧メールやチャットだけの友達

結果：1. いる 55% 2. いない 45%

質問⑨コンピュータゲーム

結果：1. よくする 30% 2. 時々 38%
3. あまり 20% 4. しない 12%

質問⑩インターネットを利用した犯罪

結果：1. よく知っている 21% 2. 少し 44%
3. あまり 12% 4. 知らない 23%

5. 考察

質問①の調査結果より、第十九中学校の 1 年、2 年生の 45% は、授業終了後、塾や習い事で過ごしている。学力達成度を重視する受験教育の現状のもとで、塾や習い事を保護者により強制されている点が目立つ。

質問②、③、④、⑤、⑥の調査結果より、ICT を利用した教育に対し、生徒の高い意欲と利用不足の現状が明確になった。例えば、質問②、⑥について、約 85% 以上の生徒は、ICT を利用した教育に興味を持っていると回答した。それに対して、質問③、④、⑤より、ICT を利用した教育に関する知識および利用不足の現状を反映した。

質問⑧、⑨より、55% の生徒は、メールチャットだけの友達を持っている。68% の生徒は、コンピュータゲームを良くまたは時々すると回答している。しかし、質問⑦、⑨を通して、情報に対する責任などの意識面において、約 50% 以上の生徒たちは、欠如していることが明らかになった。

6. まとめ

本調査を通して、3 つの課題が明らかになった。(1) 素質教育を推進しているが、受験教育は、まだ中国の教育社会では深く根付いている。(2) ICT を利用した教育に対する生徒の関心、意欲等と実際の学習不足の矛盾。

(3) コンピュータ、携帯電話等の情報メディアの広範的な利用と情報社会に参画する態度の学習欠如。

参考：2004 年 2 月—4 月実施した山東省学校のアンケート
(研究者 林徳治 盧雷) を参考にし、作成した。